

写真で振り返る
2・3月の出来事



2月17日(火)、18日(水) 合併についての住民説明会

留寿都村・喜茂別町合併協議会が全ての協議事項を終了したことを受けて、合併協議会がその内容を紹介する住民説明会が、ふれあい福祉センターと鈴川集落センターの2箇所で行われました。会場には多くの町民の方が集まり、詳細な説明に熱心に耳を傾けます。特に鈴川会場では協議結果などについて様々な質問がなされ、合併後の新しい町の姿について真剣な議論が行われました。同様の説明会は、留寿都村でも行われましたが、留寿都村では住民投票に関する質問や意見が多く出されました。

3月1日(日) 喜茂別高等学校卒業式

開校60周年を迎える喜茂別高校が、閉校を1年後に控え、第57回の卒業式を行いました。旅立っていく27名の卒業生を見送るたった一人の在校生は、「これまで先輩たちに助けられ支えられてきたので、これからの毎日は自分ひとりですと寂しいけど、先輩たちと過ごした楽しい日々を思い出しながら、1年後には自分も喜茂別高校を立派に卒業したい。」と涙ながらに送辞を読み上げました。卒業生代表も「できることならもう1年高校に通って、一緒に卒業式を迎えたい」と、最後までたった一人の在校生を気遣う答辞を読み上げました。ハンカチで目頭を押さえ、嗚咽を我慢する生徒の姿も見られ、卒業生と在校生の心が通い合う心温まる卒業式となりました。



3月1日(日) 喜茂別高校生のバンドが卒業ライブ

喜茂別高校の卒業式が終了した後、男子のロックバンドと女子のロックバンドの合同卒業ライブが、農村環境改善センターで開催されました。高校の全校生徒と保護者家族、先生たちが、喜茂別町内だけでなく留寿都村や京極町などからも駆けつけ、みんなで最後の演奏を楽しみました。音響などのバックアップは、「おとなの69バンド」などのメンバーがサポートしました。最高潮の盛り上がりのなかにも、心なしか寂しさが漂います。最後に、おとなのスタッフから高校生バンドのみんなに、これまでの演奏活動を収録したDVDがプレゼントされました。



2月25日(水) 最後の合併協議会開催

2月22日に行なわれ即日開票となった留寿都村の住民投票の結果を受けて、第9回留寿都村・喜茂別町合併協議会が喜茂別町農村環境改善センターで開催されました。沢宣彦留寿都村長から、住民投票の結果を尊重し留寿都村では合併を断念する決定がなされたとの報告があったことから、この日の合併協議会では、協議会の解散が決められました。最後に菅原章嗣喜茂別町長から、喜茂別町の財政状況等について正しく認識されないままの投票結果となったことは残念だ、との挨拶がありました。



2月27日(金) わんぱく道場 うどんづくり体験教室

教育委員会主催で1年に数回実施されている麺教室(そば、うどん)の、今年度最後のうどんづくり体験教室が開催されました。毎回人気の麺教室、その秘密は、讃岐産のうどん粉など素材のよさもありますが、三浦キエさん特製のだしの効いた汁やわかりやすい実技指導も人気の秘密です。そしてなにより、子どもからお年寄りまで和気あいあいとおしゃべりしながら楽しく体験できるとあって、毎回の常連さんもおられます。とてもチャームなミニレシピブックレットも、毎回の楽しみです。



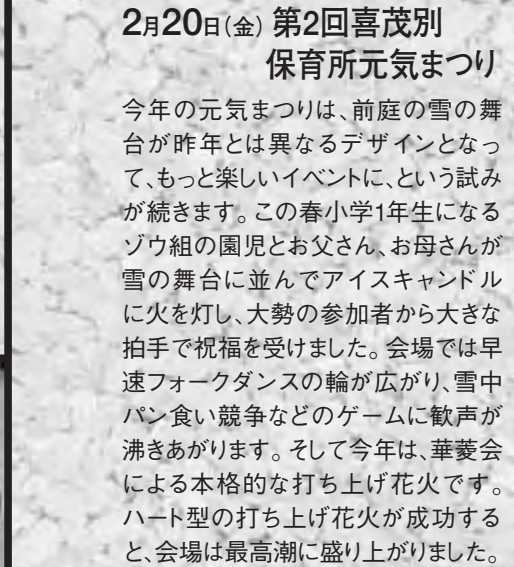
2月6日(金) 開校百年記念 鈴川小学校スキー大会

鈴川小学校向かいのスキー場で、開校百年記念鈴川小学校スキー大会が開催されました。児童の家族に混じって今年も地域の方々が大勢集まり、レースに声援をおくります。地域をあげて学校と協力しながら競技を運営するのが、恒例の光景です。アルペン競技、ジャンプ競技のあとは、集まった人全員が体育館に集まり、地域お母さん方が作った豚汁など昼食を楽しみ、午後のクロスカントリースキー競技の応援に声を枯らします。今年初めてスキーを履いたという子もしっかり完走して、大きな声援を浴びました。



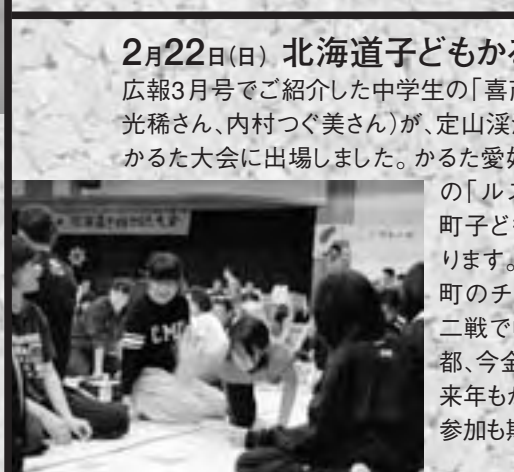
2月14日(土) きもべつシーニックナイト

郷の駅建設予定地の空き地に、今年も一夜だけの幻想空間が出現しました。冬の沿道景観づくりを目的に、NPO法人きもべつWAOが毎年おこなっているイベントです。子どもたちに人気の雪の滑り台、バレンタインディを楽しむ愛の鐘イグルーやハート型のお立ち台などが、アイスキャンドルの揺らめく光に浮かび上がって、会場は別世界のようです。あいにくの悪天候でしたが、時折家族連れや若いカップルが訪れ、雪のモニュメントで遊んだり、温かい豚汁やジンギスカンなどの無料サービスを楽しみました。



2月20日(金) 第2回喜茂別 保育所元気まつり

今年の元気まつりは、前庭の雪の舞台が昨年とは異なるデザインとなって、もっと楽しいイベントに、という試みが続きます。この春小学1年生になるゾウ組の園児とお父さん、お母さんが雪の舞台に並んでアイスキャンドルに火を灯し、大勢の参加者から大きな拍手で祝福を受けました。会場では早速フォークダンスの輪が広がり、雪中パン食い競争などのゲームに歓声が沸きあがります。そして今年、華菱会による本格的な打ち上げ花火です。ハート型の打ち上げ花火が成功すると、会場は最高潮に盛り上がりました。



2月22日(日) 北海道子どもかるた大会に参戦

広報3月号で紹介した中学生の「喜茂別小雪チーム」(岡本美優さん、富田光稀さん、内村つぐ美さん)が、定山溪温泉で行われた第12回北海道子どもかるた大会に出場しました。かるた愛好会で一緒に練習してきた、留寿都村の「ルスツおてっチーム」や今金町の「今金町子ども会チーム」などの戦いぶりも気になります。「喜茂別小雪チーム」は、初戦で愛別町のチームと対戦して勝ち進みましたが、第二戦で幌延町のチームに惜敗しました。留寿都、今金チームも同じく第2戦で敗退しました。来年もがんばれ、小雪チーム!そして、小学生の参加も期待したいところです。



2月13日(金) 喜茂別町小学校スキー大会

喜茂別小学校において、第31回喜茂別町小学校スキー大会が開催されました。これは、喜茂別町内の各小学校が日ごろ行っているスキー学習の成果を一緒に競い合うもので、アルペンスキーとクロスカントリースキーが学年ごとに実施されました。自慢の技で上位を競い合う児童に混じって、この冬初めてスキーを履く児童も全員ゴールを通過する頑張りを見せました。途中何度も転びながらもギャラリーの大きな声援を受けて、ゴールするときには晴れやかな笑顔いっぱいです。



2月16日(月) 鈴川小学校 新1年生体験入学

今年鈴川小学校に入学する新1年生は、松本諒くん一人です。これまで、様々なイベントで小学校にはよく遊びに来ていましたが、この日は新1年生としての「体験登校」です。1、2年生の教室で、みんなと一緒に、雛人形作りに挑戦しました。お兄さんやお姉さんより手早く人形の顔を描くなど、早くもすっかり学校生活に溶け込んでいるようです。休み時間には体育館でみんなと一緒に走り回っていました。12人となる児童数は、この数年で最も多い人数です。

※喜茂別町公式ホームページにも詳細な記事と写真が掲載されています。ご覧ください。 <http://www.town.kimobetsu.hokkaido.jp/>